

**被災地での医療支援に参加して
図書館員が見てきた宮城県南三陸町**



蒲生 英博
名古屋大学附属図書館医学部分館

平成23年度東海地区医学図書館協議会特別研修会
「大震災に対して図書館は何ができるか」
日時:平成23年6月1日(水)15:00~17:00
会場:名古屋大学医学部基礎研究棟 1階 会議室2

目次

- 名古屋大学の医療支援
- 南三陸町の被災状況
- 南三陸町への道
- 医療支援 一日の流れ
- 生活
- 図書館員として何ができたか
- 今後の名古屋大学の被災地支援
- おまけ ころのセルフケア

名古屋大学の医療支援 1

3月16日 物資の輸送
文部科学省からの協力依頼により、患者給食、医薬品、医療材料等合わせて20トンの物資を自衛隊小牧基地から東北大学附属病院へ輸送した

3月16日~20日 放射線測定チーム派遣
放射線技師1名、事務1名を派遣し、福島県内4か所で約500名にスクリーニング済証を渡した

3月17日 被災患者受入態勢の整備
病院内の各診療科に対して通知し、被曝患者を含む被災患者の受入手順など、受入態勢を整備した

名古屋大学の医療支援 2

医療支援チームの派遣

3月18日~23日 … 3月31日~4月5日(3チーム) 石巻赤十字病院
1チーム7~8名(医師3~4名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名)

4月5日~10日 … 4月26日~5月1日(3チーム) 志津川地区
1チーム6名(医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名)

5月6日~12日 … 5月27日~6月1日(3チーム) 石巻地区

5月18日~21日 … 5月25日~28日(2チーム) 東松島地区
精神科

5月24日~28日 福島県
放射線測定チーム

日	月	火	水	木	金	土
4月			30	31	1	2
	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30		

→ 東大チーム 2避難所を担当
→ 千葉大チーム 医師2名、看護師2名で2箇所を担当
→ 名大チーム





防災対策庁舎



公立志津川病院



公立志津川病院



宿舎 望遠閣(登米市)

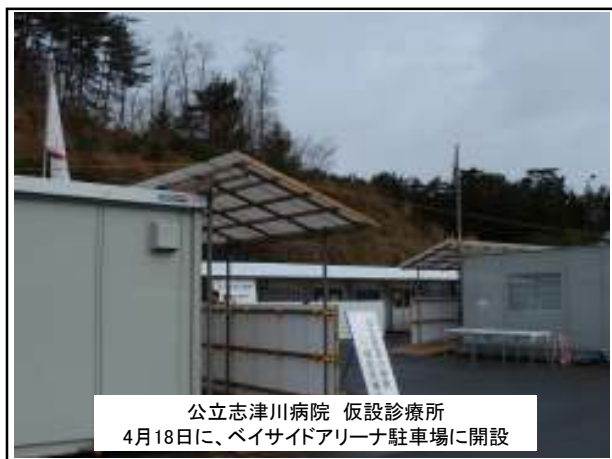


千葉大学チームと引き継ぎ



本部: ベイサイドアリーナ

被災地での医療支援に参加して
図書館員が見てきた宮城県南三陸町





志津川小学校 医務室



志津川小学校 体育館



当直 「憩いのうみ あらと」
電気と水道は使えない



水は自衛隊による給水 (志津川小学校)



炊き出し (ベイサイドアリーナ)



4月20日に「憩いのうみ あらと」を持ち主に引き渡すため、避難者は、隣の体育館2階のテントへ移動



273冊

名古屋大学の図書館員から寄せられた絵本・童話など



避難所の絵本コーナー バイサイドアリーナの入口



避難所の絵本コーナー
「憩いのうみ あらと」仮設診療コーナーの横



避難所の絵本コーナー 志津川小学校体育館



名古屋大学からの絵本・童話は、あらと保育園 と



名古屋大学からの絵本・童話は、志津川小学校へ寄贈



志津川小学校

今後の名古屋大学の被災地支援

1. 宮城県 石巻市
東海・北陸地区として医療支援
岐阜大学、三重大学、富山大学、名古屋大学
2. 宮城県 東松島市
精神医療支援
東京大学、千葉大学、名古屋大学
3. 福島県
一時帰宅者の放射線のスクリーニング検査

おまけ こころのセルフケア 1

支援者も被災する

災害支援者に生じやすい症状



- 心の変化（気分の高ぶり。イライラ。不安。無力感…）
- 心の変化[強度]（現実感、時間の感覚が無くなる。繰り返し思い出す…）
- 体の変化（不眠、悪夢、動悸、呼吸困難…）
- 業務への影響（業務に過度に没頭する。思考力、集中力の低下…）
- 行動への影響（お酒、タバコが増える。危険を顧みなくなる…）

おまけ こころのセルフケア 2

支援業務に就く際の心構えによって、ストレスからのダメージを減らすことができる。

- 業務量は無限にある
 - 様々な職種、長い期間で行っていくもの。すべての問題を解決できない。
- 業務の内容・目的を明確にする。
 - 目的を見失わない。優先順位をつける。
- 一人が処理できる業務量には限りがある。
 - 自分自身を犠牲にしない。休憩をとり、体調を自己管理する。

派遣中・派遣後のストレス対策

- 生活ベースの維持
- 自分の心身の反応に気付く
- 気分転換の工夫
- 一人で溜め込まない
- 必要ならば、専門家に相談する